



低圧進相コンデンサ火災に対する注意喚起について

大館市消防署では、気温が上昇し低圧進相コンデンサの火災が多発する時季を迎え、出火防止について注意を呼びかけています。

低圧進相コンデンサから出火する火災は、梅雨時期から9月にかけて発生することが多く、出火原因のほとんどが永年使用による絶縁劣化により、発熱が生じ、出火にいたります。

気温が上昇するとコンデンサ本体の温度も上昇し、絶縁劣化が進みやすくなり火災が発生しやすくなると推定されます。大館市では、平成16年以降、これまで6件の低圧進相コンデンサに起因すると思われる火災が発生しています。

【進相コンデンサ】

●低圧進相コンデンサは一般的な電気機器と違い、進相コンデンサ自体が動かなくなるなどの症状がみられないため、劣化や故障が分かりにくく、また、回路上の機器を使用していなくてもメインブレーカーを切らなければ電圧が常時かかっており、夜間、早朝など機械が稼働していない時、その場に人がいない時でも出火する危険性があります。

●200Vの業務用冷蔵庫やモータ等を使用する電気機器の力率を改善し、電力を効率よく使用するための機器として、店舗や作業場等で使用されています。進相コンデンサは電気機器の効率を向上させ消費電力を抑えるものです。

【低圧進相コンデンサの火災を防ぐために】

- ① 低圧進相コンデンサの火災を防ぐためには、機器を使用しない時はメインブレーカーを切り、低圧進相コンデンサに電圧がかからないようにすることが推奨されます。
- ② 特に、昭和50年（1975年）以前に製造された製品（使用期間約35年）には保安装置が内蔵されていないため、被害が拡大する危険性がありますので使用の停止や交換することなどが重要です。
- ③ 概ね10年以上経過したものは、専門業者による点検を受け、計画的に交換することが推奨されます。

問い合わせ先

大館市消防署 予防調査係 43-4151 内線234



写真1

低圧進相コンデンサ火災の状況。
コンデンサを○で示す。

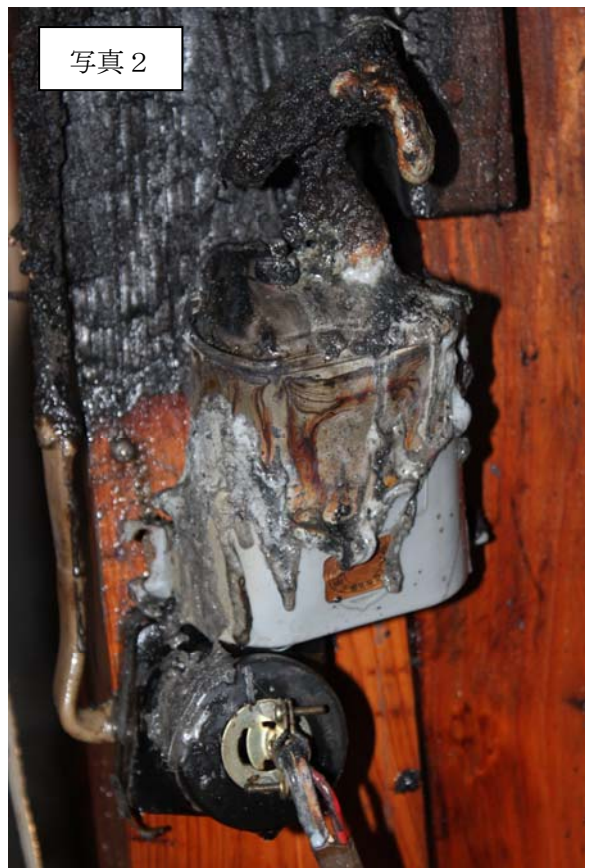


写真2

低圧進相コンデンサの拡大写真。

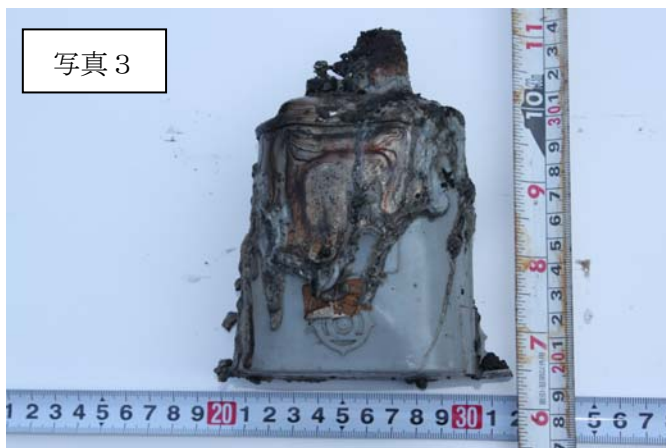


写真3

低圧進相コンデンサの拡大写真。

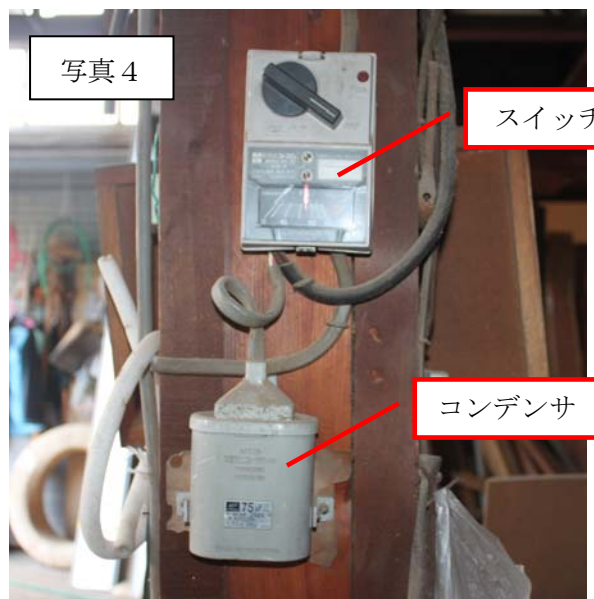


写真4

スイッチ

コンデンサ

低圧進相コンデンサの設置例。